

大阪湾の磯の生き物観察シート

No.17 アメフラシの卵と貝殻 かいがら



アメフラシは磯でよく見かけるいそ軟体動物で、大きいものは体長20～30 cm程度になります。広い意味では巻き貝の仲間ですが、貝殻は退化して薄い透明な板状となって体内に取り込まれています。背中を押すと、少し硬い殻があるのがわかります。雌雄同体で海藻を主に食べています。卵塊はウミソウメンと呼ばれ、黄色あるいは橙色のラーメンのような細長い糸が集まったように見えます。



アメフラシの卵塊 (ウミソウメン)



アメフラシの体内にある貝殻
(紫色になっているのは、アメフラシが出した紫色の液が付着したため。刺激を受けると分泌する)